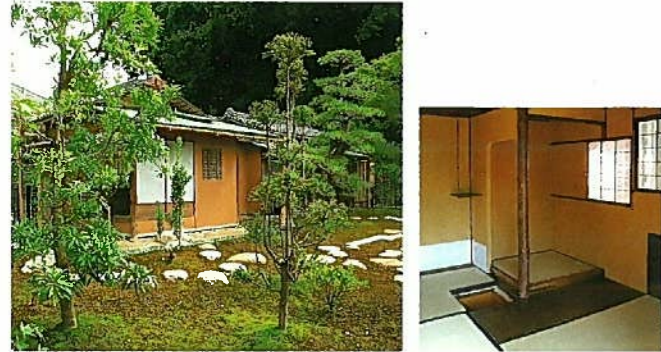


こころ静かなひとときを

1 茶室「暮雪庵」



松坂屋を創業した伊藤家が愛用した由緒ある茶室です。「暮雪庵」の名前は江戸時代後期の茶人・久田耕甫が命名したと考えられています。平成15年に名古屋市にある伊藤家の別荘・揚舞荘より織部の里公園に移築されました。暮雪庵では定例茶会を開催しています。是非茶室の見学とともに一服をお楽しみください。

気軽に陶芸体験

2 創陶園(作陶場)



創陶園ではろくろを使った作陶体験や絵付け体験ができます。茶碗や皿など、さまざまな作品を作ることができます。釉薬も黄瀬戸、志野、織部など10種類の中から好きなものを選ぶことができます。あなただけの作品を作ってみませんか。詳しくは織部の里公園までお問い合わせください。(TEL 0572-54-2710)



公園施設案内



3 ヒトツバタゴ

(開花時期:5月上旬)

- 休憩所
- トイレ(多目的トイレ有)
- 駐車場



8 あやめ園

(開花時期:5月下旬)



「大窯」から「連房」へ・織部製品の生産



7 元屋敷窯(連房式登窯)

全長24m/幅2.2m

燃焼室、焼成室14房。焼成室が地上に築かれ、階段状に連なるこの窯の構造は「連房式登窯」とよばれ、九州の唐津から導入されたと考えられています。各房にはそれぞれ出入口があります。黒織部・鳴海織部・志野織部などの意匠を凝らした、茶碗・向付・鉢等の高級施釉陶器が生産されています。

元屋敷窯のはじまり・美濃桃山陶誕生前夜



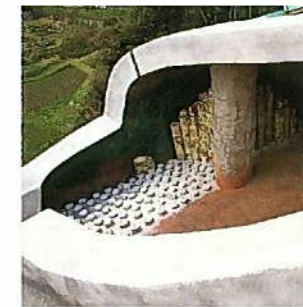
4 元屋敷東1号窯(大窯)

全長不明/幅4.0m

16世紀後半にこの窯が最初に築かれます。天目茶碗、灰釉皿、すり鉢などが生産されています。この窯は発掘された跡から当時の姿へと完全復元されています。



美濃桃山陶の誕生



5 元屋敷東2号窯(大窯)

全長7.5m/幅3.9m

東1号窯の次に築かれたこの窯では、天目茶碗・灰釉皿・すり鉢に加え、新しい意匠の瀬戸黒・黄瀬戸・灰志野などが登場しています。東2号窯は廃窯後取り壊され、床面は元屋敷東3号窯の作業場として使われています。この窯は内部の構造がわかるように復元しています。



志野の専門化と織部への移行



6 元屋敷東3号窯(大窯)

残存長5.8m/幅不明

東3号窯では志野の量産を行っています。沓茶碗と呼ばれる歪みなどの変化がつけられた茶碗が誕生します。志野の生産は、茶碗・皿・鉢・向付など多器種にわたっています。生産された志野の中には、後の織部に共通する意匠が見られます。この窯は発掘された姿そのままに展示しています。



9 菖蒲園

(開花時期:6月上旬)